



<https://printo.it/pediatric-rheumatology/JP/intro>

稀な若年性原発性全身性血管炎

版 2016

8. その他の血管炎

皮膚白血球破碎性血管炎(過敏性とかアレルギー性血管炎とも呼ばれています)は、ある原因物質に対する過剰な反応で起こる血管炎です。子どもの場合、薬や感染がきっかけになる場合が多いようです。小さい血管に炎症が生じ、皮膚を採取して顕微鏡で確認すると、特徴的な像を認めます。

低補体血症性じんま疹性血管炎は痒みを伴った広範囲の蕁麻疹様紅斑です。通常の皮膚アレルギー反応のようにすぐには消退しません。血液中の補体値の減少がみられます。

好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(EPA、以前はチャージ・ストラウス症候群と呼ばれていました)は、子どもでは非常に珍しい血管炎です。皮膚や内臓の血管に炎症が生じ、喘息を伴うことが多く、血液中で好酸球の上昇を認めます。

コーガン症候群は稀な血管炎です。眼や内耳に炎症が生じ、まぶしく感じたり、めまい、難聴といった症状がでます。より広い範囲の場所で血管炎が生じて他の症状がでることもあります。

ベーチェット病に関しては、別の項で述べます。